

モノづくり長寿企業に学ぶ 「持続可能な経営モデルとは」in 浜松

主催 静岡文化芸術大学

協力 100年経営の会・日刊工業新聞社

特別シンポジウム

100年経営の会(事務局)は8月8日、静岡文化芸術大学に協力して同大で特別シンポジウム「モノづくり長寿企業に学ぶ『持続可能な経営モデルとは』」を開いた。浜松市と愛知県豊橋市で100年以上存続してきたモノづくり企業3社のトップが登壇し、持続的発展に向けた経営手法などについて講演した。併せてパネルディスカッションも行った。本シンポジウムは経営戦略論、社会起業論といった同大の授業の一環として開催されたもので、学生や地元産業界の関係者が熱心に耳を傾けていた。

世の中の変化に前向き・柔軟に対応

私は京都に生まれ育った。創業100年というのは確かに区切りとして意味を持つが、京都の老舗は400年、500年と続いているところがある。15代に近づく老舗の当主は足利家、徳川家を意識していくなか存続させなければ、ルールみ

り、人を見ると、周りの人たち

の言葉に聞き耳を立て、自分の考え方を柔軟に変えている。そ

の姿を見て周りの人たちも協力

する。そうした現場を多く見て

きた。浜松は繩文時代から続く

独特的な地域だけに、本日はどん

な話が出てくるか楽しみにして

いる。

たいなもののが守られている。

一方で、世の中の変化などを取り

入れて前向きに家の存続を目指

している。

そういう意識でうまくやつ

てもらっている。

たいなところがある。

15代

の私が生まれた頃から、

本当に売ろうとするな。人が買

うとした。阪本は「いや

いい。自分たちで作る中で人とのつながり

が生まれる」として、阪本は「いや

いい。自分たちで作る中で人とのつながり

が生まれる」として、阪本は「いや